

第1回 加賀市立学校施設の在り方に関する検討会議

日 時：令和8年6月29日（月） 18：30～

場 所：加賀市市民会館 大ホール

会 議 次 第

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 検討会議の概要について

4 委員紹介

5 議 事

（1） 会長等の選出

（2） 加賀市立学校施設に関するこれまでの経緯及び現状について

（3） 今後のスケジュール案

（4） 課題の構造化について

（5） 学校施設の在り方に関するアンケート調査の実施について

6 閉 会

加賀市立学校施設の在り方に関する検討会議設置要綱

令和8年6月8日

教育委員会告示第10号

(設置)

第1条 教育活動の質を向上させることを目的とし、加賀市立小学校、中学校及び義務教育学校(以下「小中学校等」という。)の学校施設における課題を構造化し、議論を深め、学校施設の在り方、配置等についての方向性を定めるため、加賀市附属機関設置条例(令和4年加賀市条例第1号)第2条第1項及び別表第1項の規定に基づき、加賀市立学校施設の在り方に関する検討会議(以下「検討会議」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討会議の所掌事務は、次に掲げる事項とする。

- (1) 教育活動の質の向上に関すること。
- (2) 教育ビジョンに沿った学校施設の在り方に関すること。
- (3) 現在の学校施設の課題の構造化に関すること。
- (4) 実現可能な解決方法(手法)の検討に関すること。
- (5) 学校規模別の効果と課題に関する調査結果の整理及び検証に関すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、学校施設の在り方、配置等に必要な事項に関すること。

(組織体制)

第3条 検討会議は、委員10人以内で組織し、次に掲げる者のうちから、加賀市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 小中学校等の児童生徒の保護者を代表する者
- (3) 小中学校等の教職員を代表する者
- (4) 小中学校等の地域住民を代表する者
- (5) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から第2条に規定する所掌事務の完了の日までとする。

ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 検討会議に会長1人及び副会長1人を置く。

2 会長は、委員の互選によりこれを定め、副会長は委員の中から会長が指名する。

3 会長は、検討会議を代表し、会務を総括する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 検討会議は、必要に応じて会長が招集する。ただし、委員委嘱後の最初の検討会議は、教育委員会が招集する。

2 会長は、検討会議の議長となる。

3 検討会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 検討会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 検討会議は、必要があると認めるときは、委員以外の者を検討会議に出席させて意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

6 検討会議は公開とする。ただし、委員の申し出があるときは検討会議に諮り、非公開とすることができる。

7 検討会議の会議録は、検討会議の承認を得て公開するものとする。

(守秘義務)

第7条 委員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(教育委員会への報告)

第8条 検討会議は、第2条に規定する所掌事務の調査及び検討結果を踏まえ、その結果概要についてとりまとめ、教育委員会へ報告する。

(庶務)

第9条 検討会議の庶務は、教育総務担当課において処理する。

(その他)

第10条 この告示で定めるもののほか、検討会議の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この告示は、公表の日から施行する。

加賀市立学校施設の在り方に関する検討会議 委員名簿

(敬称略)

区分	所属	役職	氏名	備考
学識経験者	福井大学大学院 連合教職開発研究科	教 授	中森 一郎	
保護者代表	加賀市 PTA 連合会	会 長	加藤 美智代	東和中学校 PTA
		副会長	松田 小百合	山代中学校 PTA
		副会長	尾崎 竜太	片山津中学校 PTA
教職員代表	加賀市校長会	会 長	増野 弘之	作見小学校長
		理 事	平塚 智康	山代小学校長
		理 事	北市 康德	錦城中学校長
地域住民代表	加賀市まちづくり 推進協議会連合会	会 長	辻 長四郎	山中温泉西谷地区
		副会長	西納 弘	山中温泉東谷地区

加賀市立学校施設に関するこれまでの経緯及び現状について

1. これまでの経緯

加賀市立学校施設の在り方については、平成29年2月に加賀市教育委員会が策定した基本計画「加賀市立小中学校の規模適正化に向けて」に基づいて進めてきたが、当時の予想よりも児童生徒の減少が著しいことや、GIGAスクール構想による一人一台端末の導入、新型コロナウイルス感染症等の影響などにより、子どもの学習環境と社会情勢が大きく変化したことから、令和7年6月に基本計画を廃止し、概ね5年間については、ごく小規模な学校について、施設の維持を前提として、その学びの良さを更に発展させつつ、教育活動及び学校運営上の困難の解消に向けた検証・検討を行うための期間としている。

2. 近年閉校した学校

菅谷小学校 平成26年度末（H27.3末）廃止

黒崎小学校 平成28年度末（H29.3末）廃止

緑丘小学校 平成30年度末（H31.3末）廃止

三木小学校 令和3年度末（R4.3末）廃止

※基本計画策定

3. 現状（令和8年5月1日時点）

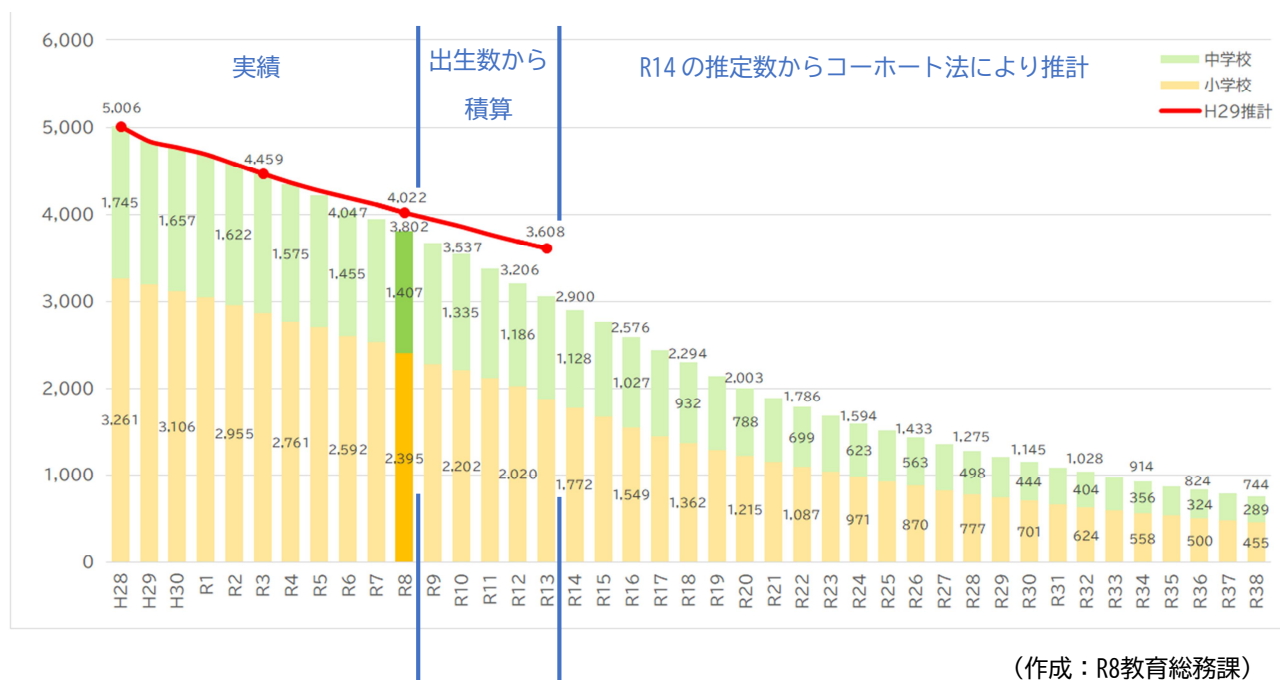
○学 校 数：小学校16校、中学校5校、義務教育学校1校 合計22校

○児童生徒数：小学生 2,395人、 中学生1,407人

4. 児童生徒数推移及び推計

児童生徒数の推移及び推計（H28～R38）

（単位：人）



5. 国の標準規模での学校数

小学校	R8	R18	R28	R38
児童数※1	2,395人	1,362人	777人	455人
標準規模※2	3～4校	2～3校	1～2校	1校

中学校	R8	R18	R28	R38
生徒数※1	1,407人	932人	498人	289人
標準規模※2	4～5校	2～3校	1～2校	1校

※1) R8はR8.5.1時点の在籍児童生徒数、R18～R38は推計数

※2) 1学級35人とし、小中学校とも1学年3学級（小学校630人/校、中学校315人/校）とし試算した。児童生徒数のみの換算で国基準にある通学距離や時間は考慮していない。

6. 近隣自治体の状況（R8.5.1現在）

	加賀市	小松市	能美市	白山市
小学校数	16校	22校	8校	19校
中学校数	5校	9校	3校	9校
義務教育学校数	1校	1校	—	—
児童数	2,395人	5,233人	2,460人	6,053人
生徒数	1,407人	2,745人	1,375人	3,005人
小学校1校あたり児童数	140.9人	227.5人	307.5人	318.6人
加賀市を100とした場合	100	161.5	218.2	226.1
中学校1校あたり生徒数	234.5人	274.5人	459.3人	333.9人
加賀市を100とした場合	100	117.1	195.9	142.4

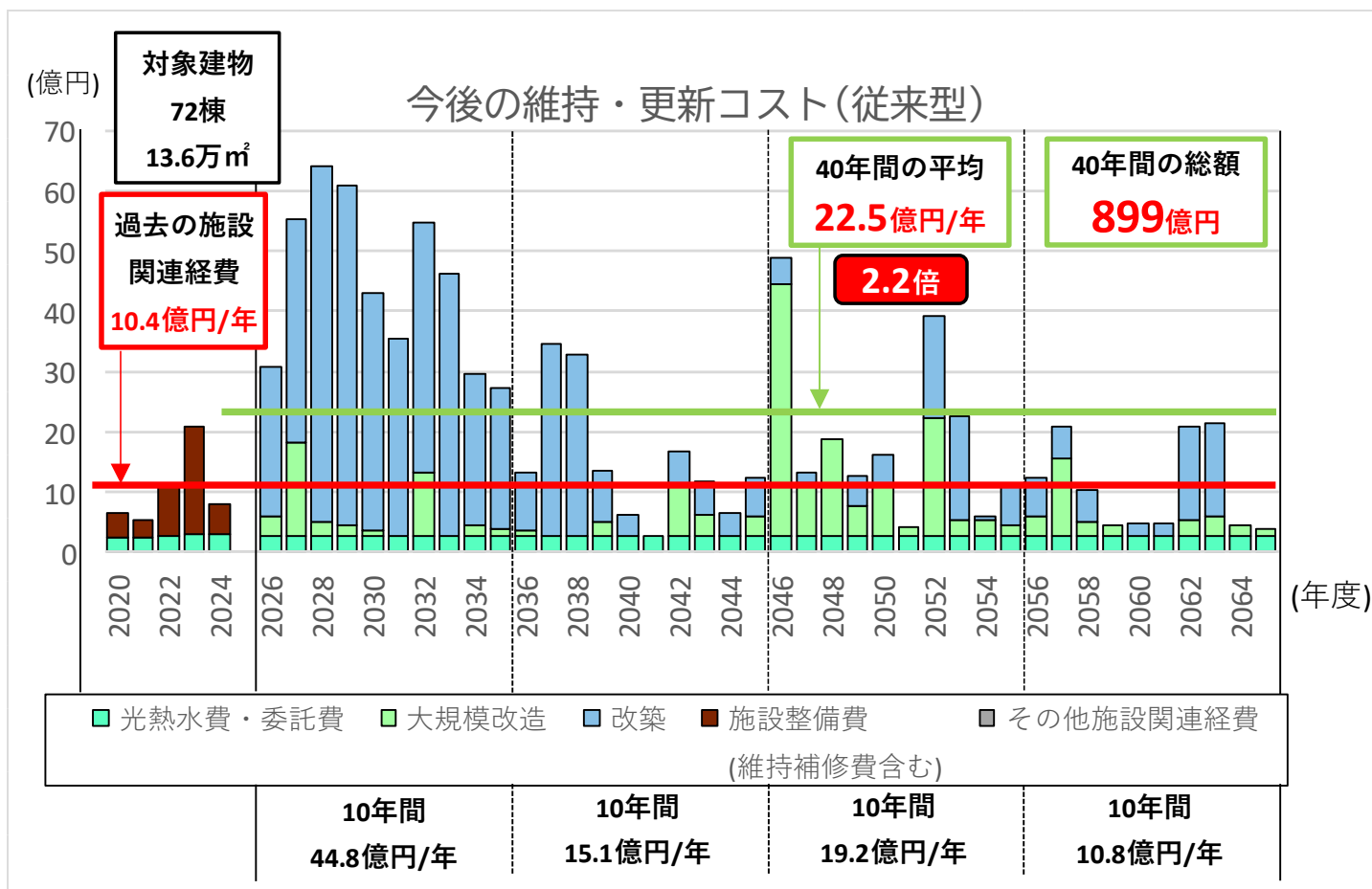
7. 学校施設の建築年数と状況

本市の学校施設は、児童生徒数が急増した昭和40年代後半から50年代に建てられたものが多く、現在、一斉に更新の時期を迎えている。

小学校校舎では、全16校のうち約8割にあたる13校が築40年を過ぎ、特に築50年を超える4校（山代、動橋、片山津、作見）については、建物の寿命を考慮した施設のあり方の検討が急務となっている。中学校校舎においては、片山津中学校が築50年を経過している。

文部科学省の資料によると「法定耐用年数については、鉄筋コンクリート造の学校施設の場合、60年（平成13年度以降に建築されたものは47年）となっているが、これは、飽くまで税務上、減価償却費を算定するためのものであり、実際の学校施設の物理的な耐用年数はこれより長く、適切な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には70～80年程度、さらに、技術的には100年以上持たせるような長寿命化も可能である。」とされている。

従来型の維持・更新コストの試算（2020加賀市学校施設長寿命化計画 更新版）

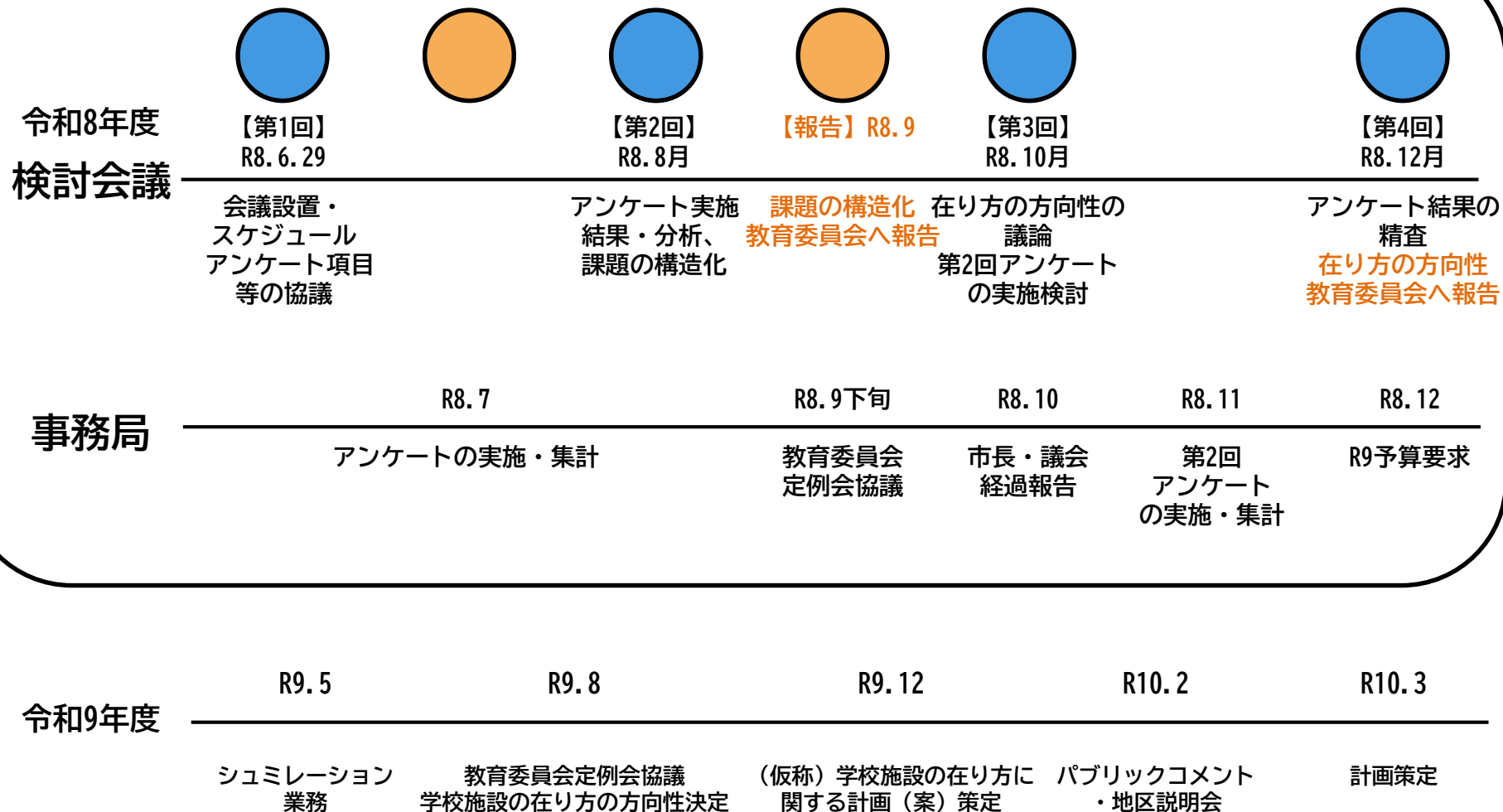


従来型の維持・管理コストの試算条件(2020加賀市学校施設長寿命化計画の更新条件)

- ・改築の周期：50年
- ・大規模改造の周期：20年
- ・改築単価：450,000円/㎡（工事期間：2ヵ年）
- ・大規模改造単価：112,500円/㎡（工事期間：1ヵ年）

※改築単価及び試算条件は、文部科学省が策定した「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」の附属Excelソフトの初期設定（330,000円/㎡）から2023年東和中学校改築工事単価（450,000円/㎡）に更新し試算した。

検討会議スケジュール案（令和8年度～）



課題の構造化について

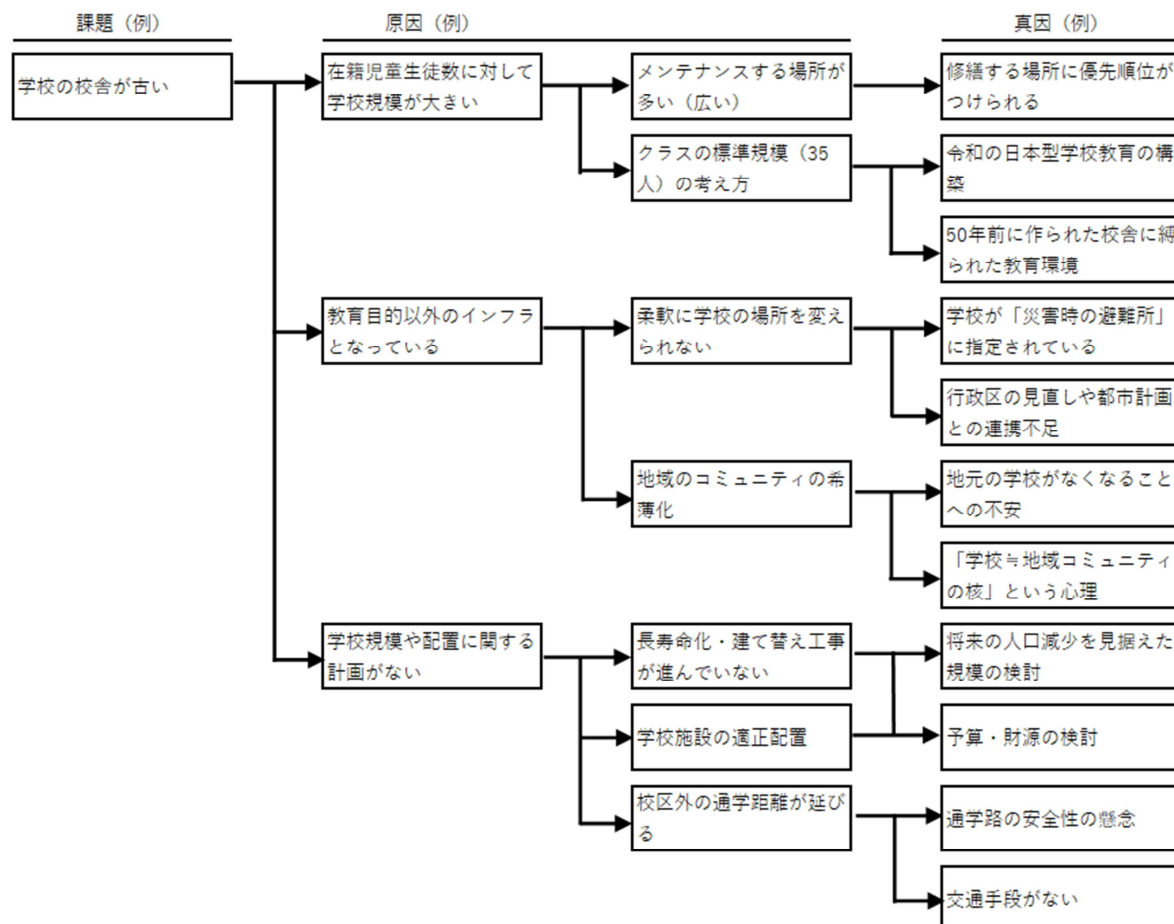
1. 課題の構造化とは

複雑で曖昧な問題を要素ごとに細かく分解し、原因や要素同士のつながりを整理して「真の問題」を見つけ出す作業。問題を分解して、見える化する作業のこと。

2. 検討会議における課題の構造化の進め方

- (1)【収集】 アンケート調査などによる課題の収集
- (2)【整理】 複雑に絡み合う課題の全体像を把握、可視化する。
- (3)【選択】 「どの問題」を解決すべきか取捨選択する。
- (4)【分解】 課題の原因を分解し、なぜ起きているのか深掘りする。
- (5)【探索】 問題の原因に対応するための解決策を探索する。
- (6)【まとめ】 解決策を実現するための学校施設の在り方、配置等についての方向性を定める

<(4)【分解】のイメージ>



3. 報告

課題の構造化により導き出した方向性の実現のためは、どのような学校施設の在り方が良いのかを提案（複数可）し、メリットやデメリットを整理したうえで、教育委員会へ報告する。

学校施設の在り方に関するアンケート調査の実施について

【目 的】

学校施設の在り方に関し、課題の構造化並びに市民（児童生徒を含む）及び学校関係者の意識の確認に資することを目的としてアンケート調査を実施する。

【対象者】

- ① 市内の学校に通う小学校 4 年生から中学校 3 年生及び義務教育学校 4 年生から 9 年生までの児童生徒
- ② ①の保護者及び小学校・義務教育学校の 1 年生から 3 年生並びに未就学児の保護者
- ③ 市内小中学校・義務教育学校の教職員
- ④ 上記以外の市民

【アンケート期間】

令和 8 年 7 月 6 日（月）から令和 8 年 7 月 26 日（日）まで

【アンケートの方法】

Web アンケート

【アンケート内容】

別紙のとおり。

【周知方法】

- 対象者①については、貸与端末の学習支援システム「クラスルーム（Google Classroom）」を用いて配信
- 対象者②については、保護者連絡ツール「コドモン」を用いて配信。保護者連絡ツール未利用の私立保育園には QR コードが記載された用紙を配布
- 対象者③については、校務支援システム「C4th（シーフォース）」などを用いて配信
- 対象者④については、
 - ◆ 市・教育委員会ホームページ
 - ◆ 市・教育委員会公式 SNS（LINE、Facebook）
 - ◆ アビオシティセントラルコートでのデジタルサイネージ
 - ◆ 子育て支援施設や教育支援施設へチラシの配布
 - ◆ ケーブルテレビの文字放送
 - ◆ 報道機関へのプレスリリース

《保護者、市民向けアンケート》（案）

本市では「加賀市教育ビジョン」に基づき、学級の規模等にかかわらず、これからの社会に必要な「自律した学び手」としての力を育むため、子ども一人ひとりに応じた個別最適かつ協働的な学びを推進しています。

他方、学校施設の老朽化や全国的に予測より早く進む少子化等を踏まえて、より安全・安心で豊かな学びの場の在り方について検討する必要があります。（学校は昭和 40～50 年代に建築された建物が多く、一斉に老朽化が進行します。また、今後 10 年間で市内の児童生徒数は約 4 割減少すると見込まれています。）

検討にあたって、学校内外の皆様のご意見を広くお伺いしたく、アンケート調査を実施することといたしました。ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

なお、アンケートへの回答は、必ず 1 人 1 回までとさせていただきますようお願い申し上げます。
また、回答の履歴等をメール等でお送りすることはできませんので、ご了承ください。

1. あなた自身のことについてお聞きします。	
Q1	あなたの年齢について教えてください。（1 つ選択）
A1	①20 歳未満、②20 歳代、③30 歳代、④40 歳代、⑤50 歳代、⑥60 歳代、⑦70 歳以上
Q2	あなたの同居する家族について教えてください。（いくつでも）
A2	①未就学児がいる、②小学生がいる、③中学生がいる、④高校生がいる、 ⑤当てはまるものは無い
Q3	あなたのお住いの地域の小学校を教えてください。（1 つ選択）
A3	①錦城小、②錦城東小、③三谷小、④南郷小、⑤片山津小、⑥金明小、⑦湖北小 ⑧動橋小、⑨分校小、⑩作見小、⑪山代小、⑫庄小、⑬東谷口小、⑭勅使小、 ⑮山中小、⑯河南小、⑰橋立海青学園、⑱市外、⑲分からない
2. 小中学校の学校施設の安全・安心や在り方についてお聞きします。	
Q4	学校施設にどのような設備があればより安心だと感じますか。（最大 3 つ選択）
A4	①敷地外からのよじ登りや乗り越えを防ぐ防犯フェンス・忍び返し ②校門などにおける学校への出入りが確認できる防犯カメラ ③送迎の際、安全に乗り降りができる場所 ④逃走する不審者の目印用のカラーボール ⑤熊よけスプレーなどの鳥獣害対策グッズの常備 ⑥一人ひとりの防災ヘルメット・防災頭巾 ⑦ その他（ご自由に記載ください）

Q5	学校施設の在り方（数や配置など）において、安全確保の他に、どのような点が特に重要だと思われますか。（最大3つ選択）
A5	① 1学級の児童生徒数や同学年の学級数がある程度多く、多様な活動などにつながる こと ② 1学級の児童生徒数や同学年の学級数がある程度少なく、きめ細かな教育などにつ ながること ③ クラス替えがあること ④ 小学校・中学校の間での環境の変化が小さいこと ⑤ 通学時間 ⑥ 教職員が連携した組織的な体制が確保しやすいこと ⑦ 子どもや保護者の声が学校に届きやすいこと ⑧ 学校と地域との結びつきを強めやすいこと ⑨ 施設の修繕や環境整備などにより、より快適な学習環境で学びやすいこと ⑩ 給食がより安定的に実施できる施設であること ⑪ その他（避難所としての観点、維持管理や改修費の観点など、ご自由に記載くだ さい）
3. 小中学校の学級数及び児童生徒数についてお聞きます。	
Q6	学校には、1学年あたりおおむね何学級で、1学級には何人いるのが理想的だと思いま すか。（各1つ選択）
A6-1	1学年：①1学級、②2学級、③3学級以上、④複式学級（複数学年を1学級にまとめ ること）、⑤一概に言えない
A6-2	1学級：①10人以下、②11～20人、③21人～30人、④31人以上、⑤一概に言えない
Q7	（A6-1で①～④の人またはA6-2で①～④の人のみ） 前問のように答えた理由として、あなたの考えに近いものを選んでください。（最大 3つ選択）
A7	① 多くの友達ができ、多様な交流がありそう（人間関係が固定化されにくそう） ② 一人ひとりに応じた、きめ細かな支援が届けられそう ③ 学級どうしで切磋琢磨したり、学級間で交流ができそう ④ 学年を越えた一体的な活動などが実施しやすそう ⑤ 運動会や遠足などの行事や活動が大勢で盛り上がりそう ⑥ 運動会や遠足などの行事や活動で一人ひとりの意見が取り入れやすそう ⑦ 授業や休み時間などに多様な活動ができそう ⑧ 授業や休み時間などに運動場や体育館などを柔軟に活用できそう ⑨ 担任以外の教職員も一体となった組織的な学校の対応につながりやすそう ⑩ その他（ご自由に記載ください）

4. 通学方法と通学時間についてお聞きます。	
Q8	小学生の通学方法として、どのような方法が良いと思いますか。(いくつでも)
A8	①徒歩、②スクールバス、③保護者送迎、④公共交通機関、⑤自転車、⑥その他
Q9	小学生の片道の通学時間は、どのくらいが許容範囲だと思いますか。(1つ選択)
A9	①15分まで、②30分まで、③45分まで、④60分まで、⑤時間は問わない
Q10	中学生の通学方法として、どのような方法が良いと思いますか。(いくつでも)
A10	①徒歩、②スクールバス、③保護者送迎、④公共交通機関、⑤自転車、⑥その他
Q11	中学生の片道の通学時間は、どのくらいが許容範囲だと思いますか。(1つ選択)
A11	①15分まで、②30分まで、③45分まで、④60分まで、⑤時間は問わない
5. 学校の課題についてお聞きます。	
Q12	少子化や施設の老朽化が更に進むとした場合、学校施設の課題として何が気にかかりますか。(いくつでも)
A12	【クラスに関すること】 ① クラス替えができないこと。 ② 運動会や合唱などの集団活動・集団学習に制約が生じること。 ③ 多様な価値観に触れさせることが困難となること。 【教職員に関すること】 ※一般論として、児童生徒数の減少に応じて、法律に基づく学校の教職員定数は減少します。 ④ 複数学年や複数教科、免許外教科などの担当となるため、教職員の負担が大きくなる。 ⑤ 教材研究や生徒指導について相談する時間や相手が少なくなる。 ⑥ 例えば産育休時など、代替教職員の確保などが難しくなる。 ⑦ 習熟度別指導、専科指導などの多様な指導方法を取ることが困難となる。 ⑧ 教職員一人当たりの業務が多くなり、研修や他校等での研究協議会等に参加しづらくなる。 ⑨ 教育支援員など、市独自の教職員の配置・確保が困難となる。 【施設等に関すること】 ⑩ 施設・設備の劣化や破損 ⑪ 不審者等への対策 ⑫ 通学路の安全の確保 【その他】 ⑬ その他(ご自由に記載ください)

《教職員向けアンケート》（案）

いつも「自律した学び手を育てる」「誰一人取り残さない」「地域・保護者と一緒に」「先生も幸せに」の実現にご尽力をいただきありがとうございます。

学校施設の老朽化や全国的に予測より早く進む少子化等を踏まえて、より安全・安心で豊かな学びの場の在り方を検討するため、学校内外の皆様のご意見を広くお伺いしたく、教職員の皆様におきましてもアンケート調査を実施することといたしました。大変お忙しい中、必ずしも直接的な教育活動には当たらないことは承知しておりますが、未来の子どもたちの教育環境のため、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、アンケートへの回答は、必ず1人1回までとさせていただきますようお願い申し上げます。
また、回答の履歴等をメール等でお送りすることはできませんので、ご了承ください。

1. あなた自身のことについてお聞きします。	
Q1	あなたのお勤めの学校を教えてください。（1つ選択）
A1	①錦城小、②錦城東小、③三谷小、④南郷小、⑤片山津小、⑥金明小、⑦湖北小 ⑧動橋小、⑨分校小、⑩作見小、⑪山代小、⑫庄小、⑬東谷口小、⑭勅使小、 ⑮山中小、⑯河南小、⑰橋立海青学園（前期）、⑱錦城中、⑲片山津中、⑳東和中、 ㉑山代中、㉒山中中、㉓橋立海青学園（後期）
2. 小中学校の学校施設の安全・安心や在り方についてお聞きします。	
Q2	学校施設にどのような設備があれば安心だと感じますか。（最大3つ選択）
A2	①敷地外からのよじ登りや乗り越えを防ぐ防犯フェンス・忍び返し ②校門などにおける学校への出入りが確認できる防犯カメラ ③送迎の際、安全に乗り降りができる場所 ④逃走する不審者の目印用のカラーボール ⑤熊よけスプレーなどの鳥獣害対策グッズの常備 ⑥一人ひとりの防災ヘルメット・防災頭巾 ⑦ その他（ご自由に記載ください）

Q3	学校施設の在り方（数や配置など）において、安全確保の他に、どのような点が特に重要だと思われますか。（最大3つ選択）
A3	① 1学級の児童生徒数や同学年の学級数がある程度多く、多様な活動などにつながる こと ② 1学級の児童生徒数や同学年の学級数がある程度少なく、きめ細かな教育などにつ ながること ③ クラス替えがあること ④ 小学校・中学校の間での環境の変化が小さいこと ⑤ 通学時間 ⑥ 教職員が連携した組織的な体制が確保しやすいこと ⑦ 子どもや保護者の声が学校に届きやすいこと ⑧ 学校と地域との結びつきを強めやすいこと ⑨ 施設の修繕や環境整備などにより、より快適な学習環境で学びやすいこと ⑩ 給食がより安定的に実施できる施設であること ⑪ その他（避難所としての観点、維持管理や改修費の観点などご自由に記載くださ い）
3. 小中学校の学級数及び児童生徒数についてお聞きます。	
Q4	学校には、1学年あたりおおむね何学級で、1学級には何人いるのが理想的だと思いま すか。（各1つ選択）
A4-1	1学年：①1学級、②1学級、③3学級以上、④複式学級（複数学年を1学級にまとめ ること）、⑤一概に言えない
A4-2	1学級：①10人以下、②11～20人、③21人～30人、④31人以上、⑤一概に言えない
Q5	（A4-1で①～④の人またはA4-2で①～④の人のみ） 前問のように答えた理由として、あなたの考えに近いものを選んでください。（最大 3つ選択）
A5	① 多くの友達ができ、多様な交流がありそう（人間関係が固定化されにくそう） ② 一人ひとりに応じた、きめ細かな支援が届けられそう ③ 学級どうしで切磋琢磨したり、学級間で交流ができそう ④ 学年を越えた一体的な活動などが実施しやすそう ⑤ 運動会や遠足などの行事や活動が大勢で盛り上がりそう ⑥ 運動会や遠足などの行事や活動で一人ひとりの意見が取り入れやすそう ⑦ 授業や休み時間などに多様な活動ができそう ⑧ 授業や休み時間などに運動場や体育館などを柔軟に活用できそう ⑨ 担任以外の教職員も一体となった組織的な学校の対応につながりやすそう ⑩ その他（ご自由に記載ください）

4. 通学方法と通学時間についてお聞きします。	
Q6	小学生の通学方法として、どのような方法が良いと思いますか。(いくつでも)
A6	①徒歩、②スクールバス、③保護者送迎、④公共交通機関、⑤自転車、⑥その他
Q7	小学生の片道の通学時間は、どのくらいが許容範囲だと思いますか。(1つ選択)
A7	①15分まで、②30分まで、③45分まで、④60分まで、⑤時間は問わない
Q8	中学生の通学方法として、どのような方法が良いと思いますか。(いくつでも)
A8	①徒歩、②スクールバス、③保護者送迎、④公共交通機関、⑤自転車、⑥その他
Q9	中学生の片道の通学時間は、どのくらいが許容範囲だと思いますか。(1つ選択)
A9	①15分まで、②30分まで、③45分まで、④60分まで、⑤時間は問わない
5. 学校の課題についてお聞きします。	
Q10	少子化や施設の老朽化が更に進むとした場合、学校施設の課題として何が気にかかりますか。(いくつでも)
A10	【クラスに関すること】 ① クラス替えができないこと。 ② 運動会や合唱などの集団活動・集団学習に制約が生じること。 ③ 多様な価値観に触れさせることが困難となること。 【教職員に関すること】 ※一般論として、児童生徒数の減少に応じて、法律に基づく学校の教職員定数は減少します。 ④ 複数学年や複数教科、免許外教科などの担当となるため、教職員の負担が大きくなる。 ⑤ 教材研究や生徒指導について相談する時間や相手が少なくなる。 ⑥ 例えば産育休時など、代替教職員の確保などが難しくなる。 ⑦ 習熟度別指導、専科指導などの多様な指導方法を取ることが困難となる。 ⑧ 教職員一人当たりの業務が多くなり、研修や他校等での研究協議会等に参加しづらくなる。 ⑨ 教育支援員など、市独自の教職員の配置・確保が困難となる。 【施設等に関すること】 ⑩ 施設・設備の劣化や破損 ⑪ 不審者等への対策 ⑫ 通学路の安全の確保 【その他】 ⑬ その他(ご自由に記載ください)

《小4～6年生・中学生向けアンケート》（案）

加賀市には、さまざまな大きさの学校があり、それぞれ個性豊かな学びが行われています。

もうひとつのほうでは、建物は毎年古くなります。また、皆さんが高校生になるころなどには小中学生の数が今より大きく減るという予測もあります。こうした状況の中での、より安全・安心で豊かな学びの場の在り方について、いま市内みんなで考えています。より良い学校にするため、あなたの意見を聞かせてください。

※保護者の方へ：なるべくお子様一人でご回答いただきたいですが、サポートが必要な場合は、ご協力をお願いいたします。

1. あなた自身のことについてお聞きします。	
Q1	あなたの通っている学校を教えてください。（1つ選択）
A1	①錦城小、②錦城東小、③三谷小、④南郷小、⑤片山津小、⑥金明小、⑦湖北小 ⑧動橋小、⑨分校小、⑩作見小、⑪山代小、⑫庄小、⑬東谷口小、⑭勅使小、 ⑮山中小、⑯河南小、⑰橋立海青学園 (A1) ①錦城中、②片山津中、③東和中、④山代中、⑤山中中、⑥橋立海青学園
2. 小中学校の学校施設の安全・安心や在り方についてお聞きします。	
Q2	学校施設にどのような設備があればより安心だと感じますか。（最大3つ選択）
A2	①敷地外からのよじ登りや乗り越えを防ぐ防犯フェンス・忍び返し ②校門などにおける学校への出入りが確認できる防犯カメラ ③送迎の際、安全に乗り降りができる場所 ④逃げる不審者の目印用のカラーボール ⑤熊よけスプレーなどの鳥獣害対策グッズの常備 ⑥一人ひとりの防災ヘルメット・防災頭巾 ⑦ その他（ご自由に記載ください）

Q3	学校施設の在り方（数や場所など）において、安全の他に、どのような点が特に大事だと思いますか。（最大3つ選択）
A3	① 1クラスのクラスメイトの数や1学年のクラス数がある程度多く、いろいろな活動などにつながること ② 1クラスのクラスメイトの数や1学年のクラス数がある程度少なく、きめ細かな教育などにつながること ③ クラス替えがあること ④ 小学校から中学校へ進学するときに、環境の変化が小さいこと ⑤ 通学時間 ⑥ 先生が連携して仕事がしやすいこと ⑦ 子どもや保護者の声が学校に届きやすいこと ⑧ 学校と地域との結びつきを強めやすいこと ⑨ 施設の修繕や環境整備などにより、より快適な学習環境で学びやすいこと ⑩ 給食がより安定的に実施できる施設であること ⑪ その他（ご自由にお書きください）
3. クラスの数とクラスメイトの人数についてお聞きします。	
Q4	学校のクラスの数とクラスメイトの人数はどのくらいが良いと思いますか。（1つ選択）
A4	①今より多い方がいい、②今より少ない方がいい、③ちょうどいい、④分からない
Q5	（A4で①～③の人のみ） 前問のように答えた理由として、あなたの考えに近いものを選んでください。（最大3つ選択）
A5	① 多くの友達ができ、いろいろな交流がありそう ② 一人ひとりにあわせて、ていねいに教えてもらえそう ③ クラスどうして切磋琢磨したり、交流ができそう ④ 複数の学年が一緒になった活動などがやりやすそう ⑤ 運動会や遠足などの行事や活動が大勢で盛り上がりそう ⑥ 運動会や遠足などの行事や活動で一人ひとりの意見が取り入れやすそう ⑦ 授業や休み時間などに、いろいろな活動ができそう ⑧ 授業や休み時間などに、運動場や体育館などを自由に使えるそう ⑨ 学校の先生がみんな一緒になって対応してくれそう ⑩ その他（ご自由にお書きください）
4. 学校へ行く方法と時間についてお聞きします。	
Q6	学校に行くときは、どのような方法で通うと良いと思いますか。（いくつでも）
A6	①徒歩、②スクールバス、③保護者送迎、④公共交通機関、⑤自転車、⑥その他
Q7	家を出てから学校につくまでの時間は、どのくらいが良いと思いますか。（1つ選択）
A7	①15分まで、②30分まで、③45分まで、④60分まで、⑤時間は気にしない